

# CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	INPEX新潟ビルディング新築計画	階数	地上10F
建設地	新潟県新潟市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	865 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,450 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2024年7月31日
敷地面積	1,680 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社イズミコンサルティング
建築面積	1,331 m <sup>2</sup>	確認日	2024年7月31日
延床面積	12,575 m <sup>2</sup>	確認者	大成建設株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 56%  
③上記+②以外の 56%  
④上記+ 56%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.7
4(教育)	2.5
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	2.5
7(エネルギー)	2.3
8(経済・雇用)	2.6
9(イノベーション)	2.6
11(都市)	2.5
12(生産・消費)	2.7
13(気候変動)	2.6
15(陸上資源)	2.3
17(実施手段)	1.5

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 3.7**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.7

音環境	4.0
温熱環境	3.2
光・視環境	3.8
空気質環境	4.0

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.9

機能性	3.7
耐用性	4.4
対応性	3.7

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.7

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性・	4.0

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.1**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.7

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	4.5

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.1

水資源	3.4
非再生材料の	4.5
使用削減	3.6

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	4.7
地域環境	2.5
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
新潟駅前の次世代オフィスビルである。 働く人のウェルビーイング、環境や安全・安心のBCPIに配慮した計画である。		
<b>Q1 室内環境</b> ・全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用し、空気質環境の向上に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・フレキシブルなオフィス区画、各階共用部のリフレッシュスペースにより、働く人の快適性向上を図っている。 ・大規模地震への対応として免震構造を採用している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・新潟駅前のランドマーク「新潟帝石ビルディング」の石材を転用している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・設備の高効率化によりZEB Readyを取得している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・リサイクル材の採用により、非再生性資源の使用量削減に寄与している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・屋内車寄せの計画により、敷地外の渋滞緩和に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
INPEX新潟ビルディング新築計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>3.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>4.0</b>	0.15		-		<b>4.0</b>
1.1 室内騒音レベル		室内騒音レベル:NC-40(45dB(A)以下)		<b>4.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>4.2</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能		遮音性能:T-2		5.0	0.62		-		
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.38		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-			-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-			-		-		
1.3 吸音		床(タイルカーペット)、天井(岩綿吸音板)の二面に吸音材を採用		<b>4.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.2</b>	0.35		-		<b>3.2</b>
2.1 室温制御				<b>3.5</b>	0.50		-		
1 室温		-		3.0	0.38		-		
2 外皮性能		断熱性能の高い建材の採用		5.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御		-		<b>3.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.8</b>	0.25		-		<b>3.8</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30		-		
1 昼光率		-		1.0	0.60		-		
2 方位別開口		-			-		-		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				<b>5.0</b>	0.28		-		
1 昼光制御		自動制御ブラインドによりグレアを制御		5.0	1.00		-		
3.3 照度		照度:500 lx以上1000lx 未満		<b>4.0</b>	0.15		-		
3.4 照明制御		自動照明制御		<b>5.0</b>	0.27		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.0</b>	0.25		-		<b>4.0</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		全面的に告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を採用		<b>4.0</b>	1.00		-		
4.2 換気				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 換気量		35m <sup>3</sup> /h・人以上		5.0	0.33		-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の1/15以上		5.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		-		1.0	0.33		-		
4.3 運用管理				<b>4.5</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		CO <sub>2</sub> 管理マニュアルの計画		4.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		非喫煙者が煙に曝されないような対策		5.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>		-		<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.7</b>	0.40		-		<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.7</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性		-		1.0	0.31		-		
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.31		-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満足		<b>4.0</b>	0.37		-		
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高:2.7m以上、十分な窓の設置		4.0	0.31		-		
2 リフレッシュスペース		執務室の1%以上のリフレッシュスペースを確保、自販機の設置		5.0	0.31		-		
3 内装計画		建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画等		5.0	0.37		-		
1.3 維持管理				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材の採用等、清掃のしやすさに配慮した設計		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		清掃用流しの設置等、維持管理のしやすさに配慮した計画		4.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>4.4</b>	0.30		-		<b>4.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>5.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		1.5割増以上の耐震性の確保		5.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		免震構造の採用		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装材の採用		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウム鋼板の採用		5.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材の採用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>4.2</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備		熱源種の二重化、吊り配管、災害時優先運転		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用、汚水槽の計画、非常用水栓の設置		4.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電機、UPSの設置、浸水対策		4.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水対策、TVによる災害情報入手		4.0	0.20		-		

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>3.7</b>	0.30	-	-	<b>3.7</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>4.5</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.56	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.3	4.0	0.44	-	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.6</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	OAフロア等により、仕上材を傷めず修繕・更新可能	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	OAフロア等により、仕上材を傷めず修繕・更新可能	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースを計画的に確保	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>	まちなみ調和に配慮した景観計画	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	既存建物の石材や地域産材の採用、防犯性への配慮等	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>4.1</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.7</b>
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>	BPI=0.80以下	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>	BEI=0.60以下	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		<b>4.5</b>	0.20	-	-	<b>4.5</b>
	集合住宅以外の評価		<b>4.5</b>	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	主要な用途別にエネルギー消費量を計測	4.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	運用管理体制の計画等	5.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.1</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	節水器具の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>4.5</b>	0.60	-	-	<b>4.5</b>
	2.1 材料使用量の削減	免震構造等の採用	4.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントB種の採用	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:ビニル床タイル 天井:岩綿吸音板 断熱材	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	針葉樹の採用	5.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の該当物質を含まない建材種別を4種別採用	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	LCCO2排出量低減	<b>4.7</b>	0.33	-	-	<b>4.7</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>2.5</b>	0.33	-	-	<b>2.5</b>
	2.1 大気汚染防止	-	<b>3.0</b>	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	駐車スペースの確保、渋滞に配慮した導入路計画等	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>4.0</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	日射反射抑制対策でガラス周りにフィン設置	4.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0	-	-	○	○	-	-	○	○	○	○	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	8.0	-	2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	-	-	-	3.0	-	2.0	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	4.0	-	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH - 屋光率 <1.0% 自然換気有効開口面積率 ≥1/15
3.1.1 屋光率	執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -
4.2.2 自然換気性能	コンセント容量 ≥30 VA/m <sup>2</sup> 天井高 ≥2.7 m リフレッシュスペース 1%以上 レストスペース -
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	想定耐用年数 - 年
1.1.2 高度情報通信設備対応	想定必要間隔 15 年
1.2.1 広さ感・景観	想定必要間隔 20 年
1.2.2 リフレッシュスペース	想定必要間隔 15 年
2.2.1 躯体材料の耐用年数	階高 ≥3.9 m
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	壁長さ比率 <0.3
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床荷重 2900 N/m <sup>2</sup>
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	
3.1.1 階高のゆとり	
3.1.2 空間の形状・自由さ	
3.2 荷重のゆとり	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 20% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 21% 水平投影面積率 31% 地表面対策面積率 4% 舗装面積率 15%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 0.58 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m <sup>2</sup> 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.44 住宅 - 太陽光 0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 ビニル床タイル,断熱材,エコマーク商品 岩綿吸音板 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 ≥50%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP)
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 122% 隣棟間隔指標Rw 0.06 地表面対策面積率 6.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 2,137m <sup>2</sup> 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 54.152 m 基準高さHb 32.21 m 緑地 56m <sup>2</sup> 水面 m <sup>2</sup> 保水性対策面 m <sup>2</sup> 高反射対策面 m <sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m <sup>2</sup>